

「ハーフじゃなくてダブルだよ」

感情的必要のトップテン Part 7

今回の「感情的必要のトップテン」は、「尊重されること」です。

マザー・テレサは 1 人の人間の存在の尊さを知っている人でした。彼女はノーベル賞受賞に伴って与えられるメダルを渡された後、「これはいくらで売れますか？」と尋ねました。彼女はそのメダルを売ったお金で、だれにも相手にされない病気の人や道ばたで死んで行く人を助けて、再び尊厳を持って生きることができるようになりました。

私たちは、周りの人々、特に家族を尊重しなければなりません。人は誰もが、「自分は大切にされている」と感じて生きるニーズ(必要)を持っています。例えば夫婦がお互いを尊重する方法として、相手に大きな影響を与える決断を下す前に、その事をじっくり話し合う事ができます。仕事に関するコミット、旅行、家に招くお客さん、大きな出費などの決断をする前に話し合うべきです。親は子供に、家事の手伝いや、しつけの決まりごとについて話し合うべきです。

年齢や性別に関係なく、すべての人間には自分の意見を持つ権利があります。私たちが敬意を払って人の意見を聞いてあげると、「尊重されたい」というニーズが満たされます。例えば、今度の休日の過ごし方を親が一方的に決めて子供に伝えるのではなく、子供たちに、どこに行つて何をしたいかを聞いてあげてはどうでしょうか?実行するかどうかは別として。そのようにする事によって、子供たちに、「自分の考えにも価値があるんだ」、「自分の意見を表現してもいいんだ」というメッセージを伝え、子供の自尊心を築き上げることとなります。

私はニュージーランド人、妻は日本人ですから、普通私たちの子供は「ハーフ」と呼ばれます。しかし、彼らは「半人前」ではなく、一人の立派な人間ですから、私たちは小さい時から子供たちに「君たちはダブルなんだよ」と教えてきました。その結果、彼らは小さい時に他の人からハーフと呼ばれてもそれが何のことかわからず、自分たちは「ダブル」、つまり普通の人より二倍の祝福を受けている者であると思って育ちました。